国際化学肥料ニュース（2011 年 8 月）

肥料業界の 2011 年 8 月動態

＊ 国際肥料工業連合会（IFA）の最新報告によれば、今年の全世界肥料需要量が 1.764 億トン、昨年より 2.5%増の見通しである。その内訳は加里肥料 5.5%増、窒素肥料 1.8%増、りん酸肥料 2.1%増。なお、2009 年肥料消費量 1.639 億トン、2010 年肥料消費量 1.721 億トン、増加率が 5.5%であった。2015 年までの 5 年間肥料消費量は年間平均 2.6%増、2015 年に 1.911 億トンに達し、窒素肥料 1.13 億トン、りん酸肥料 4520 万トン、加里肥料 3290 万トンと推測される。

＊ 長引いたインドと大手加里メーカーとの今年度塩化加里輸入契約は先月にやっと決められた。8 月 3 日にカナダの Canpotex はインドとの間に 2011 年 10 月～2012 年 3 月までの 6 月に 70 万トン塩化加里を供給する契約を締結した。2010 年 10～12 月の CFR 価格は 470 ドル／トン、2012 年 1～3 月の CFR 価格は 530 ドル／トン。

その後、ベラルーシ加里（BPC）もインドの Indian Potash との間に 2011 年 8 月～2012 年 3 月までに 120 万トン塩化加里の輸入契約を締結した。CFR 価格は 470 ドル／トンで 80 万トン、530 ドル／トンで 40 万トン。昨年締結した 90 万トンの契約（2010 年 4 月～2011 年 3 月）は CFR370 ドル／トンであった。

一方、ヨルダンの APC もインドとの間に 60 万トン塩化加里供給契約をした。平均価格は CFR500 ドル／トン。イスラエル ICL もインドとの間に 100 万トン塩化加里の契約をした。平均価格は CFR490 ドル／トン。

＊ 中国石油は中国青海省に油田水に含まれている塩化加里を抽出、精製事業を開始した。中国石油は青海省に油田開発中にカリウムとナトリウムを多量含む油田水が排出して、その油田水から塩化加里を抽出、精製する技術を把握したとのこと。

＊ パキスタンの新聞によると、国内肥料不足を対応して、パキスタン政府は 15 万トン尿素を緊急輸入するための入札を 8 月 23 日に行った。9 月 30 日まで輸入する。また、今年の尿素輸入量は 120 万トンに達する可能性がある。パキスタンの尿素生産能力は 690 万トン／年であるが、天然ガスの不足と電気供給不安定のため、稼働率が低い。

＊ ブラジル化学肥料協会の発表によれば、今年 7 月の化学肥料出荷量が 276 万トン、昨年より 21%増。化学肥料輸入量が 195 万トン、昨年より 43%増。今年 1～7 月の化学肥料出荷量 1390 万トン、輸入量 1090 万トン。最新予測では、今年の化学肥料出荷量 2650 万トン、輸入量 1800 万トン。

＊ アジア地域の尿素需要が旺盛で、ベトナム Petro Vietnam 社は 9 月 5 日に 2～3 万トン尿素の入札を行った。また、インド IPL 社 8 月 26 日に行った尿素入札結果は Emmsons 社 30 万トン、Swiss Singapore 社 10 万トン、Transglobe 社 5 万トンを決定し、入札価格は CFR518～520 ドル／トン。これらの尿素はイラン品と中国品である。また、インドは引き続き 215 万トンの尿素入札を行う予定です。

＊ インド政府が尿素の販売価格制限令と補助金制度を改正する可能性が出てきた。尿素の国際価格の高騰により、尿素販売補助金が重い負担となり、インド政府は一部地域の尿素販売価格制限の撤廃案を提出した。もし、議会に通過されたら、2012 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までに尿素販売価格が自由化される。

＊ アメリカ地質調査局の最新発表によれば、各国にすでに確認された加里鉱石埋蔵量は 95.07 億トン、約 240 年分の採掘量に維持できる。また、地球上のすべての加里資源量が 2500 億トン（K2O 計算）と推定される。（詳細な訳文は別途で送付する。）

＊ BPC は東南アジア向けの塩化加里を値上げすることを決定した。平均値上げ幅は 25 ドル／トン、新価格は 10 月 1 日から実施。値上げ後、東南アジアの標準塩化加里 CFR 価格は 535 ドル／トン、大粒塩化加里 CFR 価格 550 ドル／トンとなる。

＊ 北米の塩化加里在庫量が減った。7 月末現在北米地域の塩化加里在庫量が 170 万トン、6 月より 2.5 万トン、昨年 7 月より 24%も減った。一方、7 月の塩化加里生産量が 74.6 万トン、販売量 76.2 万トン（K2O 計算）であった。

大手各社の営業業績

＊ カナダ Potash Corp は 2011 年第 2 四半期の収益を公表した。塩化加里の販売量 250 万トン、昨年より 32%増。売上利益が 7.93 億ドル、昨年同期よりほぼ倍増。2011 年上半期の塩化加里販売量 590 万トン、売上利益は 15 億ドル。また、りん酸肥料の生産販売も順調で、会社全体の上半期利益は 23 億ドルに達した。一方、Potash Corp はヨルダンの APC、イスラエルの ICL、中国の中国化学肥料、チリの SQM 社の株式を持っているため、第 2 四半期だけでこれらの会社から計 1.59 億ドルの分配金を受け取った。2011 年塩化加里販売量 960～1000 万トン、売上利益 29～32 億ドルを予定する。

＊ アメリカ Intrepid 社は 2011 年第 2 四半期の塩化加里生産量 20.5～21.5 万トン、販売量 22～23 万トン。

＊ ブラジルヴァーレ社は 2011 年上半期の業績を公表した。売上高 289 億ドル、純利益 133

億ドル、2011 年第 2 四半期では売上高 154 億ドル、粗利 77 億ドル、純利益 65 億ドルで、史上最高記録。

＊ ノルウェーYara 社は第 2 四半期の化学肥料販売量が大幅減少、純利益が昨年より 40%減の 4.1 億ドルであった。主な原因はリビアにある合弁企業 Lifeco は 2 月 20 日から生産停止、ヨーロッパ 4～5 月の旱魃で肥料生産と販売が不振であった。

＊ アメリカ Mosaic 社 3～5 月の業績報告では、DAP 生産量 210 万トン、販売量 280 万トン、平均販売価格（工場渡し価格）574 ドル／トン、売上高 29 億ドル、純利益 6.49 億ドル。

＊ ロシア Eurochem 社は 2011 年第 2 四半期の窒素肥料販売量 141.8 万トン（内尿素 51.7 万トン）、MAP と DAP44.2 万トン、純利益 3.41 億ドル。

肥料プラント新規建設

＊ ロシア Uralchem 社はロシア政府とラドビア政府からバルト海のラドビア港に化学肥料物流センターの建設許可をもらった。当該物流センターの面積 12 ヘクタール、投資額 7000 万ドル、2013 年 7 月から運営、年間処理量 200 万トンの予定。

＊ ロシア Phos Agro の子会社 VPC 加里はベラルーシ鉱産（Belgorkhimprom）社と共同でロシア Talitsky 加里苦土鉱山の開発に協力協定を締結する予定。Talitsky 加里苦土鉱山の加里埋蔵量が 6.81 億トン、VPC は 2008 年 3 月に 168 億ルーブルの金額で取得し、採掘と精製施設を建設中、2016 年から生産開始、2018 年に 200 万トン／年の生産量を達する見通し。この鉱山の開発により、ロシア Phos Agro は加里肥料の生産に正式参入する。

＊ ベトナム石炭鉱業グループは Tinh Thai Nguyen 省 Huyen Thai Thuy 県に硝安工場を新設することを決定した。投資額 2.8 億ドル、生産能力 20 万トン硝安／年。また、ベトナム国防省はベトナム石油（Petro Vietnam）と共同で 45 万トンアンモニア、20 万トン変性硝安／年の工場を建設する。当該工場に使う原料はベトナムと中国との間に領有権を争う南シナ海の天然ガスにする予定。

＊ カナダ Allana 加里はアフリカのエチオピア東北部 Dallol に 3 件の加里鉱山調査許可証を取得した。その地域には加里鉱石がすでに確認され、必要な条件が揃えれば、採掘開始の予定。

＊ オーストラリア Wesfarmers 社の子会社 CSBP は、西オーストラリア州バース港の南43ｋｍにある硝安工場の第 2 期増設工事の許可を得た。当該硝安工場が増設工事完成後、アンモニア生産能力が現在の 52 万トン／年から 93.6 万トン、粒状硝安が 42 万トン／年から 87 万トンまで増強する。投資額は 4840 万ドル。

＊ ヨルダン JMPC はインドネシア PKG（PT Petrokimia Gresik）との間にりん酸合弁工場の建設を東ジャワに着工した。当該工場の総投資額 1.843 億ドル、完成後、肥料用に毎年 60 万トンりん酸（P2O5 計算）と 60 万トン硫酸を生産し、50 万トンりん石膏処理施設を持つ。2014 年完成する予定。また、ヨルダン JMPC の CEO は PKG とカリマンタン島に、Pusri 社と MAKASSAR に肥料用りん酸工場を合弁で建設する予定と発表した。

＊ オランダ Outotec 社はウズベキスタン AMMC と合弁でウズベキスタンに 4280 万ドルを投資し、生産能力 50 万トン／年の硫酸工場を建設する。生産する硫酸はりん酸肥料の原料として使う予定。

＊ 三井物産と三井化学はブルネイ国営石油と合弁でアンモニア工場を建設する。投資額は約 30 億ドル、2012 年施工、2015 年完成。生産能力は 85 万トンアンモニア／年。

＊ ロシア国営天然ガス（Gazprom）はロシア西部 BASKAL アンモニア工場の増設工事を完成し、9 月から大粒尿素の生産を開始すると発表した。2 ラインの尿素生産設備の生産能力は現在の 26 万トンと 37 万トンから 33 万トンと 46.2 万トンに増加する。当該増設工事は日本の東洋エンジニアリングと伊藤忠商事が共同受注、施工した。

＊ ブラジル石油は 2011～2015 年の化学肥料分野への投資計画を公表した。主な内容は下記の通り。ブラジル東北部に 30.3 万トン／年の硫安工場を建設し、2013 年 5 月完成予定。中西部に 76.1 万トン／年のアンモニア工場と 121 万トン／年の尿素工場を建設し、2014 年 9 月完成予定。東南部に 51.9 万トン／年のアンモニア工場、東部に 76.3 万トン／年の尿素工場、79 万トン／年のメタノール工場、30 万トン／年のメラミン工場、20 万トン／年の酢酸工場と 25 万トン／年のギ酸工場を建設し、2017 年 6 月完成予定。これらの工場が完成後、毎年 294 万トン尿素と 81.3 万トンアンモニアを供給できる。

＊ インド PPL 社はりん酸と硫酸の設備増強のため、将来 3 年間に 1.35～1.37 億ドルを投資すると発表した。主な内容は 2000 トン／日の硫酸工場を新設し、その硫酸をりん酸生産に使う。2010～2011 年度、PPL のりん酸生産量は 24 万トン（P2O5 計、以下同）であったが、3 年後は 40 万トンに引き上げる。これに伴い、DAP と化成肥料の生産能

力は 150 万トン／年になる。2010～2011 年度に PPL は 66 万トン DAP、54 万トン化成肥料を生産した。PPL は Zuari-Maroc りん酸肥料社が 85%、インド政府が 15%株式を所有する。

その他

＊ ロシア備蓄銀行とドイツ銀行は共同でベラルーシ加里（Belaruskali）に 20 億ドルを貸し、Belaruskali は自社株式 30%と輸出契約を担保として差し出す。但し、その貸金は直接ベラルーシ政府に渡し、外貨備蓄に充てる。ベラルーシは外貨不足で、8 月 1 日現在政府の外貨備蓄が 41.5 億ドルしかなかった。ベラルーシ政府は外貨獲得のため、ロシア企業や中国企業に Belaruskali の株式を譲渡する動きがあった。

＊ ロシア政府は国内肥料メーカーの統合を推進する政策を打ち出した。目的は国際市場の発言力を確保すること。6 月に Uralkali 社と Silvinit 社と合併したことを皮切りに、国有企業 Gazprom の子会社シベリア-ウラル石油化学（Sibur）と世界第 2 位のりん酸肥料メーカーPhos Agro との間に合併協議を開始した。Phos Agro は今年 7 月にロントン証券取引所に上場し、5.4 億ドルの新規資金を入手した。また、Uralkali はベラルーシの Belaruskali を買収する動きがある。

＊ カナダの Agrium 社は同国の Evergro 社を買収した。Evergro はカナダ西部に拠点を持つ芝生と園芸用品専業大手会社である。この買収により、Agrium は肥料だけではなく、芝生と園芸用品分野でもカナダ最大の供給者となった。

＊ ブラジルのヴァーレ社とブラジル国営石油（ペトロブラス）との間に行っているブラジル東北部 Taquari-Vassouras 加里鉱山（生産能力塩化加里 70 万トン／年）の協議は今年 10 月に結論が出る。ペトロブラスは当該加里鉱山の権利を持っているが、実際の採掘と経営はヴァーレ社に委託している。協議内容はヴァーレがその採掘と経営の契約を 2017 年までに延長し、隣の Carnalita 加里鉱山の採掘と経営権を合わせて取得する。協議成立となる場合は、ヴァーレは Carnalita に 120 万トン／年の塩化加里工場を建設、最終に 160 万トン／年に増強する。ヴァーレ社は 2017 年に 240 万トン／年の塩化加里を生産する計画。

＊ ノルウェーYara は所持しているロシア Rossosh 社の 30%株式を 3.9 億ドルの価格で売り出す。買い手はキプロスの Laguz 社で、売買成功すれば、Laguz は Rossosh の 79.41%株式を持つ。Rossosh は 100 万トン／年のアンモニア、100 万トン／年の化成肥料と 50 万トン／年の硝安生産設備を持っている。

＊ 8 月 16 日、ニュージランド北島にある Kapuni 工場のアンモニア合成設備に火災発生し、親会社の Balance 社はその工場の尿素生産を停止した。Kapuni 工場はニュージランド唯一の尿素工場で、生産能力はアンモニア 15 万トン／年、大粒尿素 23 万トン／年である。昨年 Kapuni 工場が 26 万トン尿素を生産し、ニュージランド全国需要量の 39%を供給した。